

平成24年度学校関係者アンケート結果についての考察一覧

評価項目		低学年	高学年	保護者
教育目標・教育計画	質問項目	(1)	(1)	(1)
	肯定的評価	93.0%	86.8%	96.4%
	考察	学校が楽しいと、ほとんどの児童がとらえている。	約13%の児童が否定的評価である。学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察することが必要である。	子どもが楽しく学校に通っていると、ほとんどの保護者はとらえている。
教科指導	質問項目	(2) (3) (4) (5) (6)	(2) (3) (4) (5) (6)	(2) (5) (7)
	肯定的評価	88.9%	89.4%	91.4%
	考察	約99%の児童に好きな授業がある。「自分の意見を発表する」ことや「わからないときに質問しやすい」などの項目の肯定的評価が、約80%となっているので、引き続き、言語活動の充実を図ったり、学び合いの学習形態を推進したりする必要がある。	約94%の児童に好きな授業がある。「自分の意見を発表する」ことや「わからないときに質問しやすい」などの項目の肯定的評価が、80%台となっているので、引き続き、言語活動の充実を図ったり、学び合いの学習形態を推進したりする必要がある。	日頃の授業が、ある程度信頼を受けている。しかし、10人に1人は授業が理解できていないので、指導方法の工夫が必要である。今年度、「あゆみ」についての見直しを行ったが、肯定的評価が昨年度より約7%下がった。
道徳・特別活動	質問項目	(12) (13) (14)	(12) (13) (14) (15) (16)	(12) (13) (14)
	肯定的評価	92.5%	93.6%	95.9%
	考察	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。	道徳教育、規範意識の育成の取組が家庭でも行われている。今後も、家庭と学校が連携を図りながら取り組んでいきたい。
人権教育	質問項目	(7) (8) (10) (11)	(7) (8) (10) (11)	(3)
	肯定的評価	95.6%	92.8%	94.1%
	考察	仲間づくりの観点では良好な児童がほとんどである。また、教師の取組の姿勢も伝わっている。自尊感情の育成が重要である。	96.6%の児童は学校で友達に会うのは楽しいと回答しているが、悩みを相談できる友達がいる児童は約90%である。低学年からの継続した取組が必要である。教師の取組の姿勢も伝わっている。自尊感情や助け合いの心の育成が重要である。	人権教育の取組が、理解されている。
生徒指導	質問項目	(9)	(9)	(4) (6)
	肯定的評価	88.5%	86.0%	92.6%
	考察	友達同士で解決できないような心配事があったときは、先生など大人に相談できるようにアプローチしていきたい。	友達同士で解決できないような心配事があったときは、先生など大人に相談できるようにアプローチしていきたい。	ほとんどの保護者が子どもの悩み事を学校に相談できると回答。子どものことで学校へ相談しにくい保護者にもアプローチをしていきたい。
安全管理	質問項目			(8)
	肯定的評価			89.9%
	考察			「東山子ども安全見守り隊」の方々の協力に感謝している。児童への登下校の指導を強化していきたい。
地域との連携	質問項目			(9) (10) (11)
	肯定的評価			81.9%
	考察			行事への参加、学校からの情報発信については、肯定的評価が高い。PTA活動については、昨年度と同様、約6割の保護者が積極的に参加している。